ニカラグアでの医療ボランティア活動報告

平成26年3月22日～平成26年3月31日にわたり、海外臨床実習のマイプランとして、ニカラグア共和国で医療ボランティアを行った。以下に活動内容、問題点、実習の成果について述べたい。

1. 活動内容

本実習は浜松医科大学の講義に佐賀大学より参加したもので、今回ニカラグアとアメリカ合衆国を基盤としたキリスト教系NGO団体Corner Of Loveが主催するボランティア活動にTeam Japanとして加わった。この団体の大まかな活動内容は、ニカラグア共和国の郊外マタガルパ地区の農村を巡回し、低料金又は無償で医療診察と処方を行い、必要な者に対しては衣服や靴などを提供し、さらに集金したものを村に還元することで、村の生活向上を図るというものである。（詳しくはwww.corneroflove.orgを参照。）

Team Japan 2014

Team Japan は浜松医科大学生 9 人、九州大学生 2 人、佐賀大学生 1 人と倉本クリスティーン教諭の 13 人で構成され、医学部生に限らず工学部生も参加していること、複数の大学にわたっていることなど多彩なチームであった。活動内容として、診察や処方、衣服などの提供を農村で行う日（Clinic Day）ではチームを大きく 9 つの役:Providers（診療を行い、処方箋を書く）, Pharmacy（薬の管理、配布）,Stats（統計処理）, Runner（処方箋等の受け渡し）、Crowd Control（混雑緩和）,Weight and Height（体重測定、身長測定）, General Medical Support（Provides のサポート）, Shoes and Clothing Distribution（衣服・靴を必要者に配布）に分担し、4 日間でそれぞれ希望の役割を担当した。私は日本の医学生の中でも最高学年であったため、全日 Provider を担当した。1 日目と 2 日目はアメリカ人看護師や日本人医師とペアを組み、身体診察や診断、そこで用いられる処方箋の書き方などを学んだ。３日目と最終日は、もうひとりの医学生とペアを組み Provider として診察・処方を行った。診察中の患者との会話は通訳（スペイン語⇔英語）を通じて行われ、日々の医療英語の重要性を感じた。1 日平均して 1 ブース２０～３０人の患者を担当し、次々とやってくる患者は生後４日目から老人まで多種多様であった。中米に位置するニカラグアでは、気候や公衆衛生など、日本とは大きく異なる社会的背景が多いため、おのずと鑑別診断なども異なってくる点はとても興味深かった。また、何度も活動に参加している団体幹部やアメリカ人看護師に現地の Common Diseases や社

会的・環境的背景から起こる医療問題、劣悪な医療アクセスを考慮した処方の工夫など、ディスカッションを通じて学ぶ機会を与えられた。

2. 問題点

活動の問題点として、まず慈善活動であるがために継続的な治療を提供できないことが課題であると考えた。今回、何人かの喘息児を見る機会があったのだが、喘息の治療には継続的な薬と資金が必要になり、ボランティアの範囲内ではこれを担うことができないため適切な治療を行うことができなかった。また、診療所で行うことのできる検査が非常に限られているため適切な診断を行うことができず、経験的に処方を行い、さらにその後の患者の状態を確認することができないという点である。ボランティアで診療をしているがために、ある一定範囲外のものは具体的な治療を行えないという限界を肌で感じた。これらの問題を解決するためには、一慈善団体の努力による改善には限界があり、社会・経済的な発展を基礎とした社会・医療福祉の充実を国家レベルで改善していく必要があるのではと強く感じた。しかし、これらの慈善団体の援助を必要としている人々がいることも事実であり、その点に関しては多いに賞賛に値する活動であると感じた。

3. 実習の成果・総論

今回の海外臨床実習において、私は医療英語を実践的に使用する機会と医師としての当事者意識を体感する経験を同時に得ることができた。初めて患者を自ら担当し、診察から診断、処方を行ったが、自分の能力で患者を改善させることもできれば、悪化させることもできてしまうという大きな責任を痛感した。これまで日本での病棟実習では感じたことの無い、医療や患者に対する医師としての当事者意識を強く感じることができたことは、今回非常に有意義であったと思う。

また同時に、発展途上国における医療の課題を肌で実感することができ、より具体的に問題に関心を持つようになった。この体験を一回限りの物ではなく、これを起点に、これからも機会があればこのような活動に参加したいと思う。ボランティアは提供すると同時に様々なことを得ることができることを実感した実習となった。このような貴重な体験をほかの多くの学生も得ることができるようにと願っている。